

平成27年度QC活動奨励表彰を受賞して

中材・手術室 副看護師長 立石くるみ

できることから始めよう!国立病院機構QC活動奨励表彰において、277題の応募のなか、九州グループ優秀賞を受賞することができました。当院でも患者目線に立った安全・安心で良質な医療の実践にするための医療サービスや医療安全、より多くの収入、より少ない支出を意識した経営管理など業務の質の向上を目指しQC活動を行っています。



私たち中材・手術室でできることは何か考えてみました。週2回病棟スタッフが在庫数量を確認し、中材に各病棟で決められた定数を請求、補充する定期払い出しを行っていたのですが、定数は決めていても定数以上に請求し、保管場所に収まらず床や棚の上に箱ごと置くなど明らかな過剰在庫がありました。定期払い出しにおける「ムリ、ムラ、ムダ」について考え、定期請求品目や払い出し業務に関わる時間に関する問題点をみつけ、中材が在庫確認から補充までを一括して行う定数払い出しを実践してみることにしました。過去のデータから使用頻度の多い物品の選定、準備しやすくするため請求表の改訂や常時2名体制で作業効率をあげる工夫など業務の標準化を行った結果、過剰在庫の削減と払い出し業務に関わる時間短縮によるコスト削減が図れました。

今回表彰されたことで、取り組みに対する達成感が得られ、スタッフ一人一人の自信にもつながりました。また、スタッフ一人一人の小さな気づきを継続した取り組みにしていくことで、スタッフの能力向上や自己実現、ひいては質の向上につながると考えます。今後もQC活動を通して、多くの達成感が得られるよう副看護師長として頑張っていきたいと思えます。





第2回指宿医療センター市民公開講座を開催しました

10月12日、「“がん”について知ろう!」と題し、指宿市民会館にて市民公開講座を開催致しました。当センターの4名の医師およびMSWが、それぞれの専門領域の視点から“がん”について講演致しました。その後、第2部として、聴衆の皆様のご質問にお答えする形式でのパネルディスカッションを実施しました。

1 第1部 講演

5名の演者がそれぞれ講演を行いました。



入場者数 249名

①最近の“がん”の動向と予防について

演者：副院長 吉留伸郎

②消化器がんの新しい診断法と内視鏡的治療

演者：消化器科医長 小園雅哉

③消化器がんの外科治療

演者：外科医長 青木大

④泌尿器がんに対する内視鏡手術

演者：泌尿器科医長 水間浩平

⑤がん相談支援センターについて

演者：MSW 林大作

2 第2部 ディスカッション

演者5名が会場からの質問をテーマにパネルディスカッションを行いました。



がんへの恐怖心が少しやわらいだ。

先生方のご説明を聞いて安心できる病院だと思った。

家の近くで最新の治療・手術が受けられることをうれしく思う。

3 ポスター展示

市民のみなさんに見て頂き、質問を頂きました。

